

○議長（古川元規） 3番 加藤智恵子議員。

○3番（加藤智恵子） 議席番号3番、加藤智恵子です。

私からは、オレンジパークの記念イベントについてと、高齢者の孤立予防と最期まで安心して暮らせる地域づくりについてです。一部田村議員と重なることもあります、一応予定どおり質問させていただきます。

先日、オレンジパークのあずまやにテーブルが設置されました。また、小学生が希望する「みんなとだから楽しめるブランコ」も完成しました。これらは以前から住民の皆さんが望んでいたものであり、形になったことを多くの方が喜んでおられます。

そこで、この設置を記念し、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる楽しいイベントなどを開催してはどうかと考えています。

舟橋村では、月イチ園むすびや公園カフェなどがありますが、今年は特別に記念イベントとして、例えば、赤ちゃんのハイハイレースや幼児のキックバイクレース、それと大人は体力に応じたウォーキングやマラソンなど開催してはいかかかと考えますが、村としてどのようにお考えか見解をお伺いいたします。

次に、高齢者の孤立予防と最後まで安心して暮らせる地域づくりについてお伺いします。

本村においても高齢化が進み、今後は単身高齢者世帯が増加することが見込まれます。全国では、内閣府の推計により、令和6年には、自宅で亡くなり、社会的に孤立していたと見られる方が約2万1,000人を超えたと報告されています。

舟橋村では、平成31年3月に自殺予防に対する計画が策定されており、今年が最後の年になります。

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる体制づくりのために、次の3点についてお伺いいたします。

1つ目、本村における孤独・孤立対策の推進状況と関係機関との連携体制について。

2つ目、地域包括センター等につながない単身高齢者の把握及び見守り体制について。

3つ目、孤独や不安を抱える方が助けを求めやすい地域づくりの推進について。

本村が誰一人孤立することなく、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせる村であり続けることを願い、答弁を求めます。

○議長（古川元規） 渡辺村長。

○村長（渡辺 光） 3 番加藤議員のオレンジパークの記念イベントについて、まずはお答えをさせていただきます。

冒頭になりますが、あずまやのテーブルの設置について大変お時間を要してしまいましたこと、おわびを申し上げます。

そのかいてもあって分かりませんが、大変十分なテーブルが設置できたものと考えておりますので、今後もぜひとも多くの方々にご活用いただければと存じます。

さて、オレンジパークの記念イベントについてですが、スポーツイベントというふうな記載が通告書にございましたので、一旦はまずこのスポーツイベントとして、私、受け止めさせていただきましたが、公園の特性上、平らでもないですし、運動公園ではないので本格的なスポーツはちょっと難しいのかなというふうに考えておりますが、遊びという要素に重点を置いたものは、検討できるのではないかとというふうに考えております。

踏まえて、子どもから高齢者の方まで幅広い世代の方が一様に楽しめるものとなりますと、一緒にプレーするというか、行うとなると、なかなかできるスポーツ種目はないと思うんですが、今ほどいただきましたご質問の中身は、ハイハイ競争であったり、キックバイク、多分ストライダーだと思うんですけど、子どもの足で多分走るようなやつですね。

そういうようなレースというご提案をいただきましたので、何か既存のイベントと掛け合わせるような形で行うことが、非常に村民の方々が来ていただくに当たっていいのかなというふうに質問を聞きながら感じたところでありますので、その点、検討させていただきたいというふうに思います。

一方、スポーツイベントではありませんが、来る 3 月 15 日には、議員の皆様にもご招待の通知が届いておるかと思えます。「みんなとだから楽しめるブランコ」のお披露目会が園むすびプロジェクト様によって開会されますので、まずは、取りあえずは一旦は、こちら、議員各位のみならず、村民の方お一人でもお時間が許す方にはご来場いただきたいというふうに考えておりますので、皆様方におかれましては、お近くの方にお声かけ、ご協力をいただきたいというふうに考えております。

以上でオレンジパークの記念イベントについての答弁とさせていただきます。

○議長（古川元規） 船木健康福祉課長。

○健康福祉課長（船木寛人） 3 番加藤議員の、高齢者の孤立防止と最期まで暮らせる地

域づくりについてのご質問にお答えいたします。

まず、本村における孤独・孤立対策の推進状況と関係機関との連携体制についてですが、3点目の、孤独や不安を抱える方が助けを求めやすい地域づくりの推進とも関連しておりますので、併せてお答えいたします。

まず、本村における65歳以上のひとり暮らしの方の人数は、今月1日時点で79人となっております。

村では、ひとり暮らし高齢者の方が孤立しないよう、社会福祉協議会及び地域包括支援センターと連携しながら様々な施策を実施しております。例えば、65歳以上の要介護・要支援者以外の方に対しまして、年1回、おたっしゅチェックリストを配布、回収しまして、リスクの高い方には家庭訪問やサービスの紹介などを行っております。

また、65歳以上のひとり暮らし高齢者の方で希望される方に、緊急時の不安解消や社会的孤立感の解消を図ることを目的としまして緊急通報装置を貸与しております。

このほか、各地区で定期的に健康体操教室やお茶会などの地区サロンが開催されておまして、社会福祉協議会や地域包括支援センターが補助をされております。

村としましては、このような取組や機会を通しまして、高齢者の方の社会的孤立感を解消するとともに、地域とのつながりを持っていただけるよう努めております。

次に、2点目の、地域包括支援センター等につながない単身高齢者の方の把握及び見守り体制についてですが、ひとり暮らし高齢者の方には、夏の始まり頃に熱中症対策としまして、民生委員の方に経口補水液及び温湿度計を配布していただき、訪問した際に高齢者の方の様子などを確認していただいております。

また、避難行動要支援者台帳に基づきまして、高齢者の方の見守りを行っております。

あと、認知症対策の一環としてですが、徘徊SOSネットワーク事業や見守りシール事業も実施しております。

さらに、月1回、65歳以上のひとり暮らしの方で、希望される方に配食サービスを行っておりまして、これらの機会を通じました見守り体制の多層化に努めております。

今後も社会福祉協議会や地域包括支援センターなど関係機関と連携しながら、高齢者の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、単なる見守りというわけではなくて、社会参加や生きがいづくりを含めた総合的な孤独・孤立対策に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。